

# 小栗判官・照手姫伝説

八柳 修之

2月26日、ウォークメイト「キュンとする町藤沢宿と遊行寺」、長生院、小栗判官照手姫のお墓の前で、この物語をお話したが意外に知られていないことが分かった。この物語は藤沢を舞台としているので紹介したい。



小栗判官と10従者の墓



照手姫墓

寺伝によれば1428年（正長元年）頃に照手姫は他阿大空上人の弟子となり、剃髪し長生尼と号した。開山は他阿大空上人、遊行寺の支院となり、以後、度々火災、震災にあい、現在の本堂は1991（平成3）年に落成したものである。

さて、長生院には小栗判官と従者10人、照手姫、鬼鹿丸〈おにかげまる〉の墓がある。

「小栗判官・照手姫物語」を長生院に伝わる「小栗判官一代記略図」より見て見よう。



- 1) 室町時代、1416（応永 23）年、上杉禅秀が鎌倉方足利持氏に対して謀反をおこした「上杉禅秀の乱」があった。常州（茨城県協和町）の一城主、小栗満重は上杉方で持氏に攻められ落城。小栗判官満重の子、助重は従者 10 人と共に商人の姿をして三州（三河）に落ち延びて赴く。
- 2) 途中、判官は藤沢、横山の館に宿をとる。横山大善、実は盗賊で判官の持っている財宝を狙っていた。
- 3) 大善は人を食い殺すという鬼鹿丸（おにかげ）に乗せて、振り落し殺そうと企てるが、判官は馬術の名手、鬼鹿丸を操って見事碁盤の上に乗って見せる。
- 4) そこで、大善は乾の御殿に遊女を集めて酒宴を催し小栗一行の毒殺を図る。その中にいた絶世の美女照手姫がその悪計を知り、密かに判官へ告げた。家来達は毒殺されたが判官は一口を付けただけで難を免れ、鬼鹿丸で遊行寺に逃げる。
- 5) その夜、遊行大空上人の夢枕に閻魔大王が表れ、上野原に行ってみろというお告げがあった。翌日、大空上人らが上野原へ行って見ると従者 10 人は死体となっていた。
- 6) 大空上人は判官を僧二人の曳く座敷車で熊野本宮湯の峯温泉に送り療養させる。
- 7) 一方、照手姫は、横山の館から武蔵の国金沢に逃げるが、追っ手にとらえられ、侍従川に捨てられる。六浦で漁師に助られるが、その妻は嫉妬深く松葉でいぶしたりする。その後、人買によって照手姫は美濃国青墓村に売られる。
- 8) 一方、判官は身体が回復し、京都へ赴き本領安堵して常州に帰る。横山大善を討ち照手姫を青墓村から救出し妻として迎える。判官の死後、照手姫は剃髪し長生尼と改め小栗判官と家臣たちの菩提を弔い長生院で一生を終える。

この物語のみなもとは室町時代にさかのぼり、当時の「鎌倉大草紙」が、その根源とされている。これが江戸時代になると格好の演芸となり、浄瑠璃では近松門左衛門の「当世小栗判官」が大当たりし、さらに説教節(中世に起こった語り物の一種)に広がり、また浮世絵、絵巻物となり一世を風靡した。やがて、この物語は各地に伝わり、その土地に話を結びつけるようになった。このため、物語の筋が多すぎてどこまでが史実で、どこが伝説、フィクションなのか分からない。藤沢には小栗塚、道場坂、鬼鹿毛、閻魔堂、小栗墓、上野（うわの）坂、土震塚（つちふるいつか）などの地名がある。照手姫の出身地とされる相模原には「てるて姫」と言う地酒まである。

江戸時代の「東海道名所絵図」の藤澤宿の項に小栗伝説が紹介されてから藤沢とその近隣に色濃く根がおろされ、時宗は宣伝の材料とし、遊行上人や一遍上人ゆかりのある紀州熊野の湯の峰まで登場させている。物語の枝葉を伸ばしたのは「沙弥」と呼ばれる半僧半俗の時宗の俗時宗たちであったとされる。また物語はごぜ（目の不自由な女）や熊野比丘尼によって広まった。辻堂の藤沢市藤沢浮世絵館には歌川国貞の小栗判官と照手姫の浮世絵ほか、広重の東海道五十三次の浮世絵がある。

参考・引用資料：「藤沢と遊行寺」高野 修著 藤沢市史ブックレット2 藤沢文書館

「藤沢史跡めぐり」藤沢文庫刊行会編 名著出版

第12回全国をぐりサミット資料集 よみがえれ 中世のロマン 藤沢をぐりの会